

2021年3月期 第1四半期決算説明資料

株式会社IMAGICA GROUP

証券コード：6879

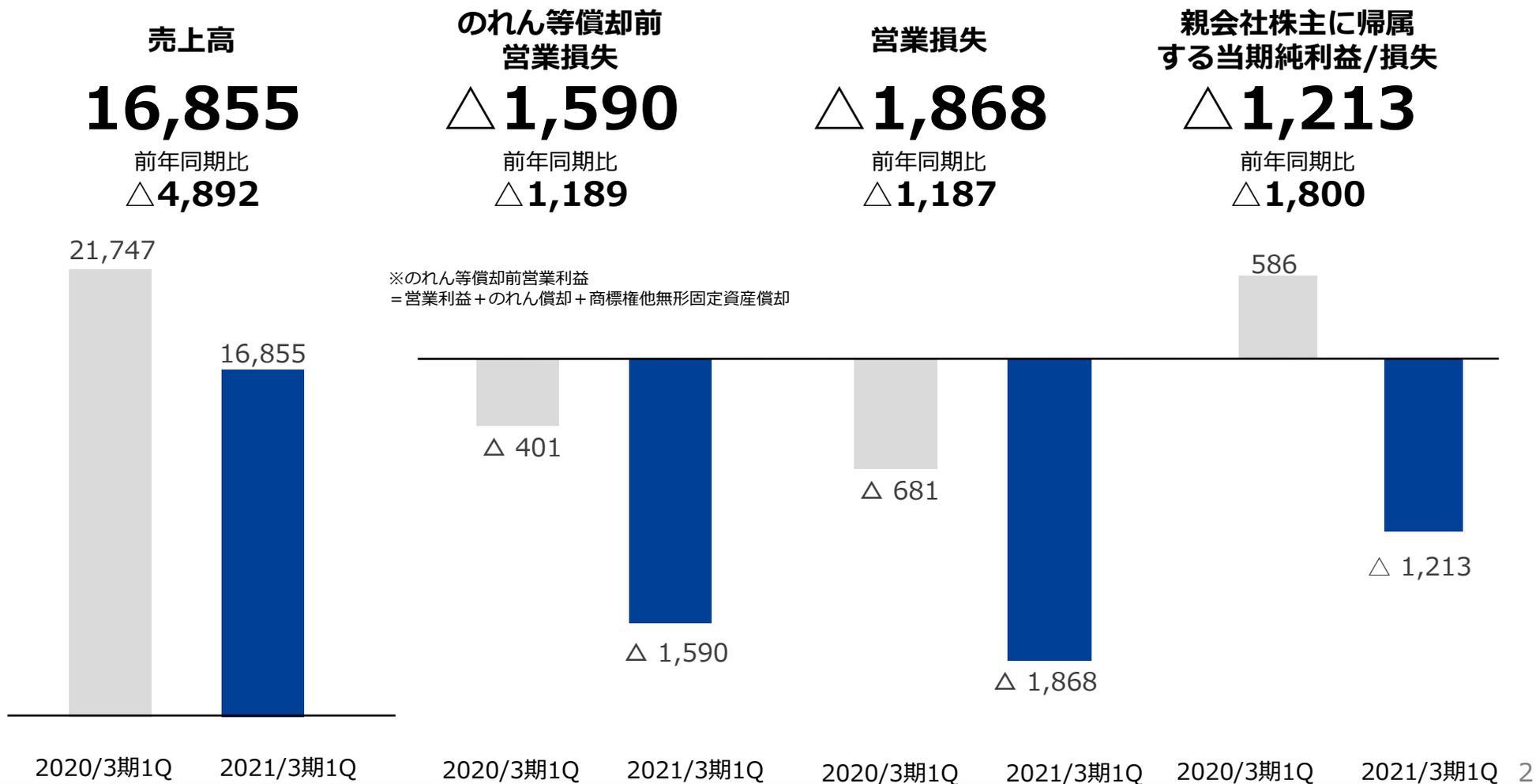
2020年8月4日



第1四半期連結決算ハイライト

売上高48億減収、営業損失18億を計上

(単位：百万円)

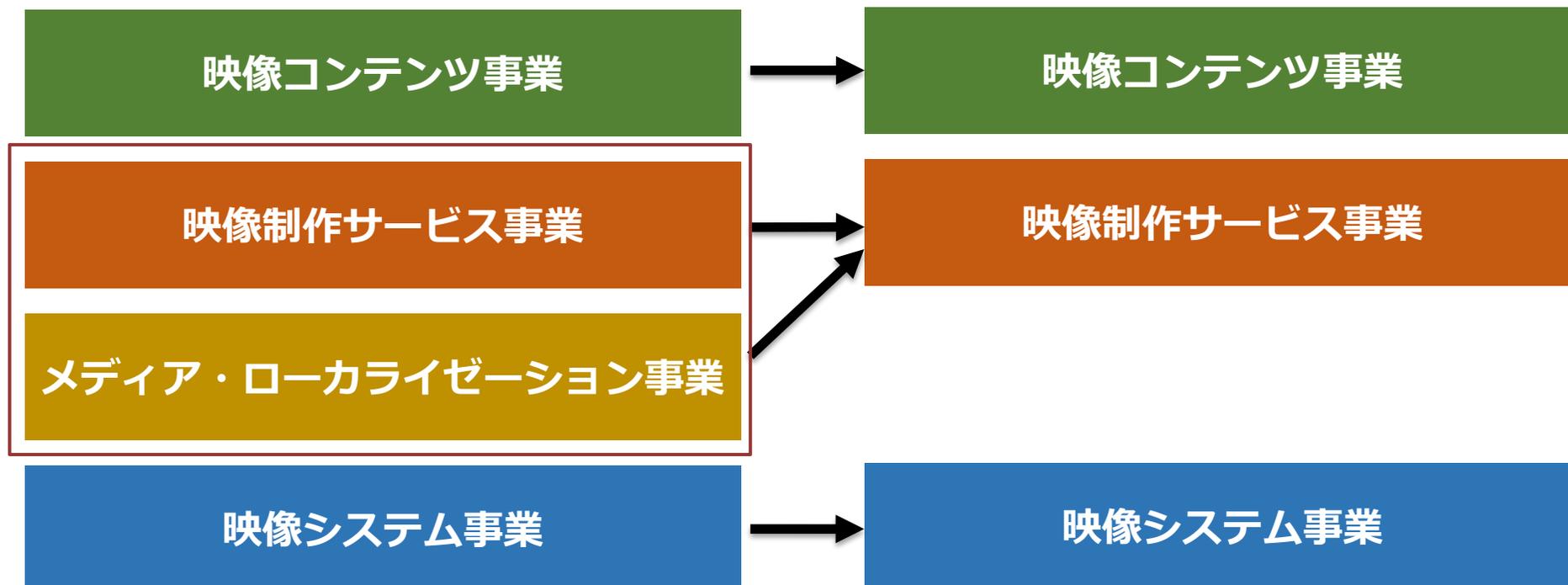


(参考) セグメント区分変更について

「映像制作サービス事業」と「メディア・ローカライゼーション事業」を統合

従来のセグメント (2017年3月期～2020年3月期)

変更後のセグメント (2021年3月期～)



映像システム事業は増収、映像コンテンツ事業、映像制作サービス事業は減収減益

(単位：百万円)		2020年3月期1Q	2021年3月期1Q		
		実績	実績	前年比増減	前年比増減率
映像コンテンツ事業	売上高	7,830	2,932	△ 4,898	△62.6%
	営業損失	△ 31	△ 469	△ 438	—
	(営業利益率)	—	—		
映像制作サービス事業	売上高	11,049	10,578	△ 470	△4.3%
	営業損失	△ 786	△ 1,369	△ 582	—
	(営業利益率)	—	—		
映像システム事業	のれん等償却前営業損失	△ 506	△ 1,091	△ 584	—
	売上高	3,154	3,522	368	11.7%
	営業利益	160	55	△ 105	△65.5%
その他	(営業利益率)	5.1%	1.6%		
	売上高	△ 285	△ 178	107	—
	営業損失	△ 24	△ 85	△ 60	—
連結合計	売上高	21,747	16,855	△ 4,892	△22.5%
	営業損失	△ 681	△ 1,868	△ 1,187	—

劇場映画作品の上映延期、TVCM、音楽ライブ収録の中止・延期等により減収減益

(単位：百万円)		2020年3月期1Q	2021年3月期1Q		
		実績	実績	前年比増減	前年比増減率
映像コンテンツ事業	売上高	7,830	2,932	△ 4,898	△ 62.6%
	営業損失	△ 31	△ 469	△ 438	—
	(営業利益率)	—	—		

売上高 前年比 ▲ 48.9 億円

- ✓ 劇場映画（実写・アニメ）作品の上映延期により売上計上が期ズレ
- ✓ TVCM撮影、音楽ライブ収録の中止や延期が複数発生
- ✓ TVアニメは制作本数の減少と放送スケジュールの変更が発生

営業利益 前年比 ▲ 4.3 億円

- ✓ 売上高減少により粗利益減少
- ✓ 活動費などのコスト削減を実行

劇場映画ポスプロやデジタルシネマ、撮影等などの受注減少等により減収減益

(単位：百万円)		2020年3月期1Q	2021年3月期1Q		
		実績	実績	前年比増減	前年比増減率
映像制作サービス事業	売上高	11,049	10,578	△ 470	△ 4.3%
	営業損失	△ 786	△ 1,369	△ 582	—
	(営業利益率)	—	—		
	のれん等償却前営業損失	△ 506	△ 1,091	△ 584	—

売上高 前年比 ▲4.7 億円

- ✓ TV番組ポスプロは受注堅調だが、劇場映画やTVCMポスプロ、デジタルシネマ、撮影等のサービスは受注減少
- ✓ 人材派遣では、在宅勤務移行等により、前期並みを維持だが人材紹介は苦戦

営業利益 前年比 ▲5.8 億円

- ✓ 海外拠点におけるローカライズサービスは、現地会計期間が1-3月でありコロナ影響は稀少、また固定費削減も継続
- ✓ 劇場映画やTVCMポスプロ、デジタルシネマ、撮影等の受注減少により全体で減益

放送局向け案件の期ズレやハイスピードカメラ販売不調により減益

(単位：百万円)		2020年3月期1Q	2021年3月期1Q		
		実績	実績	前年比増減	前年比増減率
映像システム事業	売上高	3,154	3,522	368	11.7%
	営業利益	160	55	△ 105	△65.5%
	(営業利益率)	5.1%	1.6%		

売上高 前年比 **+3.6**億円

- ✓ 放送局向け案件の納品期ズレ、ハイスピードカメラのアジア・欧米における販売の不調、および国内販売での期ズレが発生
- ✓ モバイルソリューション分野は、モバイルデータ通信の国内需要拡大により売上が堅調

営業利益 前年比 **▲1.0**億円

- ✓ 収益率の高い放送局向け案件やハイスピードカメラの販売不調により、減益

**新型コロナウイルス感染症の拡大により、現時点では合理的な業績予想の算定が困難であることから、
2021年3月期の業績予想は未定とさせていただきます。
今後、合理的な業績予想の算定が可能になった時点で公表いたします。**

- ✓ 上期までは厳しい状況が続くが、第1四半期と比較すると改善傾向あり
- ✓ グループ全体で販管費の削減、不要不急の設備投資は見直しや延期を実施

セグメント	傾向 (1q対比)	コメント
映像コンテンツ事業	やや改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 劇場映画作品は2Q以降、徐々に公開が決定 ✓ TVCMも徐々に撮影がスタートしたが、稼働率はまだ不足 ✓ 音楽ライブ収録などイベント興行はまだ状況が不透明
映像制作サービス事業	国内：やや改善 海外：苦戦	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 映画や動画配信ドラマ向けポストプロは苦戦が続くが、デジタルシネマ、TVCMやバラエティ番組のポストプロが回復基調。 ✓ 海外の映像技術サービス（ローカライズ）、2Qは現地4-6月のため、コロナ影響が大きい。ダビングスタジオは5月から再開も、欧米共に第2波の懸念があり厳しい状況が続く
映像システム事業	改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ハイスピードカメラは欧米がまだ不透明、放送局向け案件は保守増加で堅調推移 ✓ 研究開発費や活動費などコスト削減の効果が寄与

Appendix.

連結損益計算書

(単位：百万円)	2020年3月期1Q	2021年3月期1Q		
	通期実績	通期実績	前年増減額	前年増減比
売上高	21,747	16,855	△ 4,892	△22.5%
売上総利益	4,894	3,357	△ 1,536	△31.4%
(売上総利益率)	22.5%	19.9%		
営業損失	△ 681	△ 1,868	△ 1,187	—
(営業利益率)	—	—		
経常損失	△ 841	△ 1,942	△ 1,101	—
(経常利益率)	—	—		
特別利益	1,655	0	△ 1,654	△100.0%
特別損失	9	90	81	882.5%
税金等調整前当期純利益/損失	805	△ 2,031	△ 2,836	—
親会社株主に帰属する当期純利益/損失	586	△ 1,213	△ 1,800	—
(参考)のれん等償却前営業損失	△ 401	△ 1,590	△ 1,189	—

※のれん等償却前営業利益 = 営業利益 + のれん償却 + 商標権他無形固定資産償却

連結貸借対照表

(単位：百万円)		2020年3月期末	2021年3月期1Q末	前期比	主な増減要因
資産の部	流動資産	35,295	30,969	△ 4,326	現金預金 △1,332 受取手形及び売掛金 △5,102
	うち現金預金	7,339	6,007	△ 1,332	たな卸資産 +1,254 その他 +853
	固定資産	26,859	26,953	94	関係会社株式 △149 投資有価証券 +230
	うちのれん	3,167	3,038	△ 129	繰延税金資産 +489
資産合計		62,154	57,922	△ 4,231	
負債・純資産の部	流動負債	25,762	23,421	△ 2,340	支払手形及び買掛金 △2,150 短期借入金 △314
	うち短期借入金	5,004	4,690	△ 314	未払法人税等 △1,253 前受金 +2,225
	固定負債	8,913	8,705	△ 208	
	うち長期借入金	5,510	5,120	△ 390	長期借入金 △390
	負債合計	34,676	32,126	△ 2,549	
	株主資本	25,428	23,993	△ 1,434	(参考) 自己資本
	その他包括利益累計額	△ 361	△ 292	68	2020年3月期末 25,066 (40.3%)
	新株予約権	11	11	—	2021年3月期1Q 23,701 (40.9%)
	非支配株主持分	2,400	2,083	△ 316	
	純資産合計	27,478	25,796	△ 1,682	
負債純資産合計	62,154	57,922	△ 4,231		
ネット資金		△ 3,175	△ 3,803	△ 627	(現金預金 - 長短期借入金)

(参考) 2020年3月期 実績 (変更後セグメント)

変更後のセグメント区分に組み替えた2020年3月期のセグメント別実績

(単位：百万円)		第1四半期	第2四半期累計	第3四半期累計	通期
		実績	実績	実績	実績
映像コンテンツ事業	売上高	7,830	15,454	20,038	26,205
	営業損失	△ 31	△ 26	△ 203	△ 359
	(営業利益率)	—	—	—	—
映像制作サービス事業	売上高	11,049	23,743	35,663	49,091
	営業損失	△ 786	△ 751	△ 550	△ 348
	(営業利益率)	—	—	—	—
	のれん等償却前営業利益	△ 506	△ 192	278	756
映像システム事業	売上高	3,154	8,955	12,784	20,551
	営業利益	160	1,250	1,478	2,714
	(営業利益率)	5.1%	14.0%	11.6%	13.2%
その他 (連結調整)	売上高	△ 285	△ 730	△ 1,080	△ 1,758
	営業損失	△ 24	△ 197	△ 367	△ 655
連結合計	売上高	21,747	47,422	67,405	94,090
	営業利益/損失	△ 681	275	357	1,351

* 映像制作サービス事業の数値はセグメント間取引などの調整が含まれております。

2020年4月～ 主なグループTOPICS

2020/4/1
IMAGICA GROUP

IMAGICA GROUPが「NTTドコモ 新体感ライブCONNECTスペシャル イベント」高臨場感ライブビューイングに参画



2020/5/11
ウェザーマップ

ウェザーマップ、赤城乳業株式会社と、氷菓「ガリガリ君」のお天気サイト「ガリ天 2020」をオープン



2020/5/29
IMAGICA Lab.

IMAGICA Lab.が 第24回JPPA AWARDS 2020 映像技術部門グランプリほか各賞を受賞



2020/6/1
イマジカデジタルスケープ

イマジカデジタルスケープが株式会社湘南ハイテク企画の株式取得（当社の孫会社化）、IT分野での更なる強化と事業拡大を目指す



2020/6/10
アイチップス・テクノロジー

アイチップス・テクノロジー、【4K60Hz対応】4K 画像歪補正 (Warping)/エッジブレンディング LSI『IP00C382』を開発、サンプル出荷を開始



2020/4～6
フォトロン

フォトロン、ハイエンド・コンパクト高速カメラ『FASTCAM Nova S16』新発売



超高解像度・コンパクト高速カメラ『FASTCAM Nova R2』新発売



2020/4～6
ROBOT

ROBOTが外出自粛応援ムービーを製作。第1弾「きょうのできごと a day in the home」、第2弾「いまだっただけ言える気がする」4/24から6/4までyoutubeで無料配信を実施。現在はHuluにて配信中！



2020/7/3
IMAGICA GROUP

新しいエンタテインメント体験を実現する事業会社、株式会社IMAGICA EEX（イマジカ イークス）を設立！



映像コンテンツ事業	映像制作サービス事業	映像システム事業
ロボット	IMAGICA Lab.	フォトロン
ピクス	SDI Media Group	フォトロン M&E ソリューションズ
オー・エル・エム	イマジカデジタルスケープ	PHOTRON USA
オー・エル・エム・デジタル	イマジカ・ライヴ	PHOTRON EUROPE
オー・エル・エム ベンチャーズ	コスモ・スペース	アイチップス・テクノロジー
Sprite Animation Studios	IMAGICA SDI Studio	IPモーシオン
	PPC Creative Limited	
	ウェザーマップ	
	イマジカアロベイス	
	湘南ハイテク企画	

お問い合わせ先

株式会社IMAGICA GROUP グループ経営管理部

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル11階

T E L : 03-6741-5742 F A X : 03-6741-5752

Email : ir@imagicagroup.co.jp

URL : <https://www.imagicagroup.co.jp/>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。